

手揃いの競演となり近來にない充実した演奏会であった。幸い爽やかな秋晴れで広い会場も殆ど満員の盛況を呈し終演後別室に關係者が集まり乾盃、散会した。門琵琶合奏1内田、平井千代の寿1旭幸會員合奏1挨拶1山崎旭幸、後援会長久徳正彦1橋中佐1高千穂旭楓1都落ち1菅旭香1白虎隊1伊勢谷安江1間重次郎の妻1梅原旭濤1小栗栖1木下皇水1加茂の宵月1富樫旭桂1北の庄1久徳旭蘭1お市の方1楊嶽水1新撰組1田中旭昇1鶴ヶ岡1林田旭城1雪晴れ1内田欽水1城山1平井春嶺1袈裟と盛遠1柴田旭堂1日蓮誕生1三浦蓮水1青葉の笛1山崎旭萃1挨拶1旭萃。

ちくぜん琵琶の会

十二月七日(日)正午神戸中央区兵庫民会館、主催柴田旭堂会、後援兵庫県、神戸市ほか(有料)。神戸市文化賞受賞記念の演奏会で盛況であった。舞曲一番1旭堂、旭楓、旭晶、旭朗1松の廊下1大垣旭海1壇の浦1溝脇旭光。絃旭嶺、旭優1新作白菊1川村旭鶴、川村芳子1大石主税1川村旭修1衣川1野口旭碩1お蝶夫人1美喜旭悠1石童丸1宮村旭当。絃旭嶺、旭朗、旭優1伏見の吹雪1松尾旭苑1大楠公1村山旭勢1荒城の月変奏曲1旭楓外七人。箏小林早苗1菊水1柴田旭堂1若き敦盛1酒井旭韻1月に偲ぶ1西沢旭朗。絃旭碩1小督1大嶽旭晶1秋風故郷山1青木旭昶。絃旭寿1橋中佐1高千穂旭楓1伽羅の兜

1空野旭昭・絃旭晶1琵琶と打楽器のための嬉遊曲あけぼの1琵琶旭堂外四人。マリンバ、ドラム、パーカッション各一人1西郷隆盛1大嶽旭寿1堅田落1福井旭範・絃旭堂1老公漫遊1空野旭陽・絃旭堂1義士の本懐1会主柴田旭堂。外に詩吟一題。

詩吟・琵琶秋のおさらい会

十二月七日(日)昼一時東京四ツ谷須賀神社大広間、主催洲鳳会本部。琵琶金州城1三宅正人、中村洲心1菅公1伊東羨風、松崎洲陵。外に会主山田洲鳳氏の詩吟川中島をはじめ詩舞、詩吟、書道吟五十六題(尺八、琴伴奏)。

京都本妙寺義士祭

十二月十四日(日)昼京都東山仁王門前本妙寺、協賛京都琵琶協会。(次号詳報)

京都琵琶協会十二月例会

十二月二十一日(日)昼一時西宮市松園町の会員楊嶽水氏宅。(次号詳報)

ラヂオ・テレビ琵琶放送

十一月十日(月)夕六時毎日TV「大衆演劇大字祭に登場」で石橋旭嶺氏「亡女の片袖」を放映。
十一月十三日(木)午後三時十分NHK・FMで「耳なし芳一」全曲を木原綾子女士史放送。
十二月四日(日)午後三時十分NHK・FMで「大石主税」全曲を藤巻旭鴻氏放送。

●京都琵琶協会一月定例会 一月十一日(日)昼一時本部平井会長宅。新年初会合につき全員繰合せ出席されたし。
●新春名流演奏会 一月二十四日(出)正午東京銀座ガストホール、東京新聞社、日本琵琶楽協会共催(有料)。

あきと 明けましてお目出とうございます。どうぞ本年もよろしく御垂教御鞭撻のほどお願い申し上げます。人生五十の坂を遙かに通り越して今なお健康を保つことが出来るのは、正座して無我の境地に入り、腹の底から大声を張り上げ、同時に両手を使っての琵琶演奏で身体が運動出来るのと、機関紙京絃の編集発行によって頭脳を駆使するため頭の体操に役立っている結果であり、若い時から琵琶に志したお蔭によるものと喜んで居る。同時に筆者は晴雨寒暑を論ぜず、大手を振って大股で一時間前後の散歩を毎日欠かさず励行している、これは皆様に是非お勧めしたい。年賀交際の御協賛を沢山頂戴して紙面を飾ることも出来御礼申し上げます。一応御申込みの順により登載した方が万一不備の点があれば不悪御寛容頂きたい。しばらく寒さと戦わねばならぬ。充分御自愛のほど切に祈り上げる。

昭和五十六年一月一日発行(非売品)
編集者 植村 冀
発行所 京絃社
〒569 高槻市津之江北町一ノ二番
電話 〇七二六(七三六〇)五一

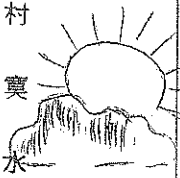
琵琶 機関紙

京絃

第三一九号 京絃社

年頭の辞

主幹 植村 冀



希望に輝く昭和五十六年新春を迎え、謹んで同好の皆さまに御慶を披懸し、併せて倍旧の御活躍を心から御期待申し上げます。

戦中戦後の混乱期に於ける琵琶樂の衰退は他の一般邦樂と同様、致命的の打撃でありましたが、戦後三十数年を経た今日、世の落ちつきとともに復活機運の微候を呈し、遠からず往時の盛況を再現するものと衷心願してゐる次第であります。特に最近、演歌とか歌謡曲などの流行歌に走り勝ちの男女青年層の多い中に、琵琶の心随に理解と興味を持って斯道に志す若い方々が増加しつつあります。そのは誠に心強く、明治、大正時代に生を享けた人の多い現在の琵琶界にとっては何よりも嬉しいことで、これらの人たちが第一線の中心となって活躍される日の一日も早いのを期待するものでございます。この意味に於て昭和五十六年の行事は、少年少女をはじめ青年層の人々の一人でも多くの琵琶新人養成

に積極的の力を注がれんことを切望致します。三味線三年琵琶八年とか云われます通り、琵琶は流派を問わず仲々むつかしく、その修業に大きな苦勞が伴うのは当然のこと、あらゆる艱苦を克服して稽古を積んでこそ、一人前の演奏家になるということ、今更喋々を要しません。

然しながら、琵琶樂は単なる遊芸ではなく最も古い伝統と品格を誇り、飽くまで人格を尊重する芸術であります。遠くは明治天皇をはじめ高貴の方々の前で回数にわたる御前演奏、近くは琵琶樂をもつて社界に貢献された数氏の叙勲や文化賞等の受賞など、邦樂の王者として自他共に認められる我々琵琶人としては、世の期待と要望に背かないよう常に心懸ければならぬと存じます。年頭にあたり、いささか愚見を述べて賀辞といたします。

詩吟・和歌朗詠考(四)

編集部



(琵琶歌1乃木將軍)
金州城 乃木希典
山川草木転荒涼 山川草木転荒涼
十里風塵新戰場 十里風塵新戰場
征馬不前人不語 征馬不前人不語
金州城外立斜陽 金州城外斜陽に立つ
(作者は山口藩士、陸軍大將、大正元年九月十三日明治大帝に殉死、齡六十四。將軍作詩中第一のもの云われる。)
「註釈」 金州城 金州半島の南部旅順の要地、明治三十七年五月二十六日乃木將軍の第三軍が奮戦し露軍を撃退した地。
荒涼 荒れて淋しい意。人 乃木將軍自身を指す。斜陽 斜めにさす太陽、夕日。
(大意) 戦いが済んだあとの金州城外は山も川も甚だ淋しく荒れ果てている。十里に広がるこの新戰場は未だ風も血腥も屍死の匂いがする。あまりの痛ましさに馬も進まず、自分も酸鼻の極に言葉も出ない、金州城外に夕陽を浴びて立ち、しばし感概にふけた。

謹賀新年

<p>〒625 日本旭会舞鶴琵琶協会 事務所 高橋旭洋 舞鶴市朝日通五條東入 電話〇七七三(六四)〇五一八番</p>	<p>〒120 一水会東京東支部 支部長 松本諸水 東京都足立区青井二ノ十四ノ二六 電話〇三(八四〇)三八九二番</p>	<p>〒011 錦心流一水会秋田支部長 星野 耀水 秋田市土崎港中央四丁目九ノ二六 電話〇一八八(四六)三三三四番</p>	<p>〒531 菅 旭香 大阪市大淀区長柄西二丁目十二ノ五 電話〇六(三五二)四〇八一番</p>
--	--	---	--

<p>〒111 研究会 東京都台東区駒形一ノ一ノ五 スズセイビル六階 電話〇三(八四五)二二二番代</p>	<p>〒343 日本琵琶振興会長 鈴木流泉 越谷市大成町一ノ二三九二(自宅) 電話〇四八九(八二二)一二四一番代</p>
---	--

<p>〒189 筑前琵琶日本旭会 扶桑流詩吟教授 師範 若宮旭登 旭登会員一同 東京都東村山市美任町一ノ四 久米川公団九ノ二〇四 電話〇四二三(九一)九三二一番</p>	<p>琵琶三美会 會長 矢吹旭美津 田中 旭 富貴 富水 桜井 旭 富貴 富水 西村 旭 富貴 富水 富山 旭 富貴 富水 一坊 寺外門人一同 〒601 京都市南区吉祥院中島町三〇ノ九 電話〇七五(六九一)〇一二八番</p>
--	--

謹賀新年

<p>〒606 錦心流琵琶 書道 馬場 鴨水 京都市左京区下鴨蔭倉町一六 電話〇七五(七八一)三〇五〇番</p>	<p>〒606 筑前琵琶橋会 法香久院 荒木 旭媛 京都市左京区岡崎徳成町二五 電話〇七五(七七二)四〇一六番</p>	<p>〒658 錦心流琵琶一水会 琵琶を楽しむ会 田中 敏水 神戸市東灘区御影中町一ノ一四 電話〇七八(八五一)二二六三番</p>	<p>〒608 林 旭萌 京都市北区上御堂上江町二三二 電話〇七五(四四一)〇六〇九番</p>
--	---	---	---

<p>秋声会・東西合同 春の琵琶東京公演 (三・一二)</p>	<p>本部 東京都品川区西五反田四ノ八ノ一二 電話〇三(四九一)八三三二番</p>	<p>前田 秋声 琵琶芸術協会代表 四絃富士会顧問 錦心流琵琶秋声会々長</p>
---	---	--

<p>〒454 琵琶芸術協会名古屋支部 錦心流琵琶秋声会名古屋本部 阿部 秋子 名古屋市 中川区 中島新町 中川住宅五ノ四〇一号 電話〇五二(三五三)〇二八四番</p>	<p>京都琵琶協会 琵琶芸術協会 京都秋声会 牧 秋静 京都市中京区西ノ京西鹿垣町一 電話〇七五(八四一)二九八九番</p>
--	--

謹賀新年

<p>〒238 教室 月・〇四五(四〇)四〇二一四 火・〇三(六九)四〇二一四 木・〇三(六九)四〇二一四 土・〇三(四四)五〇九七九 柳沢税務事務所</p> <p>史城 普門 義則</p> <p>琵琶楽、研究及指導</p>	<p>〒118 錦・都派琵琶本部 家元 都 錦穂 都 穂 苑穂 都 穂 鳳</p> <p>外会員一同</p> <p>〒118 東京都文京区根津二ノ一五ノ二 電話 (八二二) 五七〇八番</p>
<p>〒250-04 筑前琵琶橋会 押川 旭葉</p> <p>神奈川県足柄下郡箱根町強羅 電話〇四六〇(二)二二二番地</p>	<p>〒164 薩摩琵琶 仲川 秀邦 (旭朋)</p> <p>東京都中野区本町三ノ二ノ二 新都ハイツ二〇五 電話〇三(三七五)一八四七番</p>
<p>〒678 浜本 旭好</p> <p>相生市相生二丁目一四ノ一七 電話〇七九二(二)五一八番</p>	<p>〒653 筑前琵琶日本旭会 田中 旭昇</p> <p>神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一五 電話〇七八(六七)〇〇一八番</p>

謹賀新年

<p>〒523 錦心流琵琶・国風流詩吟教授 杉水 国堂 野田 勇次郎</p> <p>近江八幡市正神町一〇 電話〇七四八三(二)〇五四番</p>	<p>〒359 薩摩琵琶錦水会 正絃会・四明会会員 岡部 錦蝶</p> <p>埼玉県所沢市中新井二ノ二八 電話〇四二九(四三)〇九二八番</p>	<p>〒176 鈴木 誉士</p> <p>東京都練馬区豊玉北五ノ一一 芸の友社 電話〇三(九九一)〇三六三番</p>	<p>日本芸術琵琶 普絃会々員一同</p> <p>〒160 東京都新宿区西新宿六ノ三 山崎錦幽方 電話〇三(三四二)一〇六〇番</p>
<p>〒617 梅原 旭濤</p> <p>向日市西向日鶏冠井町山端二 電話〇七五(九三一)一六九一番</p>	<p>平井 春嶺</p> <p>〒603 京都市北区平野宮西町六四 電話〇七五(四六二)一四二三番</p> <p>京都琵琶協会 日本琵琶楽協会 同 関西支部</p>	<p>筑前琵琶旭堂会 旭会総師範 柴田 旭堂</p> <p>宝塚専科 上原 まり (旭艶)</p>	
<p>〒651 神戸市中央区上筒井五ノ四ノ二 電話〇七八(三二)一一六一番</p>		<p>筑前琵琶旭堂会 旭会総師範 柴田 旭堂</p>	

謹 賀 新 年

<p>〒042 函館市湯川町三十一番七 電話〇四二(五九)二四三番 事業所 函館市大手町一六ノ一 電話(二三)四一五六番</p> <p>高橋 蘇水</p>	<p>〒810 福岡市中央区春吉二ノ八ノ二 電話〇九二(七六一)〇三二〇番</p> <p>筑前琵琶嶺派 嶺 旭 蝶 青山 旭 子</p>
<p>〒113 東京都文京区本郷五上二丁三号 電話〇三(八一)七五七四番</p> <p>会主 輝 錦 凌 外会員 一同</p> <p>錦心流琵琶輝派 輝水会本部</p>	<p>〒662 西宮市松園町十三番二十一号 電話〇七九八(二二)八二〇八番</p> <p>琵琶一水会神戸副支部長 琵琶蓮水会 副会長 楊 嶽 水</p>
<p>〒420 静岡市西草深町二十一番二十号 電話〇五四二(五三)一四七一番</p> <p>吟詠 赤心流 琵琶 赤心流 家元 赤心流 鶴翁</p>	

謹 賀 新 年

<p>〒535 大阪市旭区中宮四ノ一二ノ一四 電話〇六(九五)九二九四番</p> <p>筑前琵琶 大阪中央部旭会 塩谷 旭 洲</p>	<p>〒171 東京都豊島区高松三ノ一二 電話〇三(九五五)三六四五番</p> <p>筑前琵琶総師範 法汪山 藤卷 旭 鴻</p>
<p>〒602 京都市上京区東堀川通樺木町角 電話〇七五(一一)四〇三三番</p> <p>筑前琵琶と詩吟教室 総師範 中島 旭 穂 (穂 風) 会員 一同</p>	<p>〒431-31 浜松市積志町一八三一 電話〇五三四(三四)〇八七一番</p> <p>薩摩琵琶鶴絃会 主宰 小野 鶴 彦</p>
<p>〒569 高槻市宮田町一ノ六ノ五 電話〇七二六(九三)三一五九番</p> <p>大和流琵琶吟家元 山崎 光 椽 筑前琵琶橋会宗範 山崎 旭 萃</p>	

年 新 賀 謹

〒160
筑前琵琶
東京都新宿区三栄町十六番
電話〇三(三五一)四五九一

日本旭会
範司
押田旭窃

〒156
東京都世田谷区八幡山二ノ一
電話〇三(三二九)三五〇〇

琵琶洲楓会
會長大館美江子

〒544
大阪生野区小路二ノ二六―二五
電話〇六(七五三)〇〇三二五番
(七五二)〇〇六六七番

高千穂 旭 楓

〒537
大阪東成区神路三ノ八ノ十八
電話〇六(九八二)二七七八番
(九七二)二七七八番

榊本 旭 風

年 新 賀 謹

〒237
横須賀市船越町一ノ五〇
電話(六一)三六七六番

山田 幻 水

横須賀琵琶連盟會長

〒336
浦和市別所四丁目一番十五号
電話〇四八八(六一)八〇一九番

花 俣 圭 水

錦心流琵琶一水会本部副會長
同 埼玉支部顧問

〒060-91
札幌市中央区南六条西七丁目
電話〇一一(五一二)七二五二番

広川 岳 楓

岳城流薩摩琵琶

〒370-12
群馬県高崎市岩鼻町局前二四七
電話〇二七三(四六)二〇〇六番

宗家 針 谷 錦 古

日本錦古流

全国朗吟文化協会関東副部長
テイチクレコード専属
群馬琵琶連盟會長
錦古流琵琶詩本部長

謹賀新年

筑前琵琶橋会師範

久 徳 旭 蘭

〒651 神戸市中央区八幡通四ノ丁一七
電話〇七八(二二二)一六一〇番

日本琵琶楽協会々員
薩摩正絃会々員
篁流東篁会主
桃山琵琶普及会

柏 木 篁 道

〒125 東京都葛飾区鎌倉四ノ三九ノ四
電話〇三(六五八)一九四七番

翠琵琶宗家

竹 下 翠 風

〒194-01 東京都町田市金井町二六一二ノ
電話〇四二七(三四)一一八八番

建武の中興と

吉野五十七年(七)

はくすい



菊池武光が武時の子で、武重、武茂、武士、武敏などの弟である。父は早く討死し兄たちも殆ど亡くなって、若冠十六才で武光が家を継いだ興國五年頃は、菊池の本城まで敵に踏み込まれて勢力の衰えた時であった。しかし武光は難局に臨んで少しも慌てず静かに軍容を整えた。そして天平三年、懐良(かねなが)親王を菊池へ迎えた。親王は後醍醐天皇の皇子で、延元元年征西將軍に任じられたが、齢は僅か八才で五條頼元が終始おそばについて輔佐したけれども、賊の勢いが強い時とて九州への直行がむつかしく、途中四国伊予の忽那(くつな)島に三年程滞在の後、興國三年五月薩摩到着、正平三年正月に漸く菊池に入られた。京から薩摩まで七年、薩摩から菊池まで六年という長い年月を必要とされた事を考えると、当時の足利勢力が如何に強かったか、足利に媚びへつらう者が如何に多かったか想像がつく。親王は既に二十才、漸く二十才を迎えた菊池武光は、同年薩の征西將軍官を奉じて、逆賊討伐に強弁して菊池本城を取戻し、山廉の城を陥して少武を降し、大友を

従え一色を長門に追い、九州の大半をほぼ平定するに至った。しかし武光の日向遠征中に豊後の大友がまた叛いたので、武光急拠帰國して之に向う、同時に筑前の少武が又叛反を起したので、武光は大友を後廻しにして先づ少武と決戦、ここに於て正平十四年七月、有名な筑後川の戦は起った。

太平記によれば、賊軍は少武頼尚を大将として総勢六万余騎、官軍は菊池武光が征西將軍官を奉じて凡そ八千余騎、兵数に大きな差があったが、武光は筑後川を渡って進撃したので少武は退いて陣を布き、睨み合いは十数日に及んだ。そして八月六日夜、武光は夜襲を決行し、八時間わたる激戦の末賊軍を亡した。勝利のあと武光が刀を川に洗えば、川は血で真赤になったと伝えられている。

菊池の九州制圧により、足利はその一族今川了俊を九州探題として九州鎮定の全権を与えた。今川は駿河・遠江の守護を兼ね、文武の才能も豊かな人物で、之に対抗することは容易でなく、加うるに武光病死、後継の武政また病に倒れて菊池一九州官軍は正に重大な危機に直面した。そこで菊池家を継いだのは武光の嫡孫武朝で、まだ十二才の少年であったが、代々忠義の家生まれ家名を汚すまいと長ずるに従い奮闘する。今川は大軍を以て菊池に迫り、天授元年七月には菊池の本城から僅か一里ばかりの水島に布陣した。その内賊の陣容に内乱が起って今川は少武冬資を斬り、為めに大動揺を来たしたので、此の機

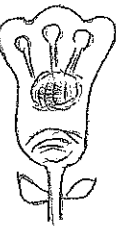
を逸せず武朝は総攻撃に踏み切り、賊軍は夜にまぎれて総退却した。

やがて天授四年(一三七八)九月、今川了俊は再び大軍を以て攻撃して来た。十六才の菊池武朝は僅かの兵を以て託磨原に迎え討ち、一族郎等の討死も少なく武朝自身も負傷したが、よく賊軍を追い退けた。吉野五十七年の間に於て、官軍が勝利を得た華々しい戦は、これを以て最後とするのである。(未完)

日蓮聖人苦難の地

佐渡が島(上)

辻 旭 城



謹んで新春を

お慶び申し上げます

旧年中のご芳情を厚く御礼申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導ご鞭撻ひとえにお願ひ申し上げます
昭和五十六年 元旦

佐渡へ佐渡へと草木も靡く

佐渡は居よいか住みよいか

歌で知られた佐渡が島

これは浪曲界の重鎮寿々木米若師の「佐渡情話」の一節であるが、首題に入る前に佐渡とはどんなところかを説明する必要がある。

佐渡へは、新潟から両津へ渡るのが便利で、両港間をわずか六十分で結ぶジェットフォイル船が通っている。

佐渡は周囲二七Km、面積八五七平方Kmで、伊豆大島の約十倍、淡路島の約一、五倍で、沖繩に次いで我が国第二の大きい島である。島内には多くの史蹟と、昔からの素朴な人情が伝えられている。島の周辺は透き通るような海と、空にかこまれた自然の美、そして「おけさ」の情緒あふれる民謡の島である。

島を取巻く海岸のほとんどもが怒濤に削られた断崖で、それが豪壮雄大な海岸美をなしている。島の北には島内最高峰の金北山(一一七三m)を主峰とする大佐渡山脈、南に大地山(六四五m)を主峰とする小佐渡山脈が聳えている。

佐渡には驚くほど社寺が多い。先づ式内社から一般民衆の厚い信仰を集めているささやかな祠に至るまで数え切れないほどある。それというの島の人の心「尊い遺産」であり、都会人に考えられない今尚お生きている大切な信仰のより所でもある。

筆者が現地を訪れ日蓮に関する研究を行ったところ、遺跡だけでも「佐渡聖蹟保存会」のあげているものは三十余箇所を越した。

日蓮聖人は承久四年(一一二二)から弘安五年(一一八二)にかけて著した「立正安國論」の主張により、鎌倉幕府の怒りに触れた。「立正安國論」には、蒙古襲来が予想され國防が叫ばれていたため、竜の口で首を刎ねら

れるところを、奇蹟により難を免れた。一命は取りとめたものの幕府に捕えられ、日蓮が鎌倉幕府によって佐渡に配流となったのは文永八年(一一七一)であるが、奈良時代に既に穂積朝臣老が遠流となり、順徳院は無念の思いを島に留めて果て、正中の変の日野資朝もここで斬られ、京極為兼や世阿弥らも配所の月を眺めている。佐渡は様々な心の痛みを語り伝えられる島である。

文永八年十月、越後寺泊に着いた日蓮の一行は二十七日、一度は佐渡を日指して出航したが、暴風雨に逢って角田港に避難し、翌日松ヶ崎(畑野町)に着き「おけさ」といわれる樺の老木の空洞の中で一夜を過ごしたと、浜にあった辻堂(現在本行寺が建っている)に籠ったともいわれる。松ヶ崎(多田の浦)と対岸の越後寺泊は、小木、両津などが開港される次前からの「公津」で、代官も流人もこの航路を利用した。



名人 山崎旭萃師は語る

十一月八日、同十五日の両日にわたり各々午後八時半から三十分間NHK第一ラヂオの「芸と人」の時間に山崎旭萃師と伊丹健太郎

氏の琵琶に関する対談が放送された。廉児島に生を享け、生来蒲柳の質であった山崎女師は、腹の底から大きな声を出すのが健康に良いとの両親の勧めで、十才から筑前琵琶を始め六十余年を経た今日まで琵琶一筋に生き、現在は関東、関西、中国、九州各地の広域に於て多数の門弟育成に専らな活躍振り、対談の間に第一日は「羅生門」次木「の各一節を、第二日は「土ぐも」と琵琶「本能寺」の一節をそれぞれ実演して琵琶界のために大いに気を吐き、聴者に琵琶の良さを深く認識させた。

吉井良三

(十一月二十四日京都琵琶協会主催の演奏会にて)

細き絃の奏でるかほそき音律に満堂寂としてしわぶきも無く

吟ずれば額より汗の流れ落つ

主客俱々呼吸は合いて



日本の調べと踊り

十一月二日(日)屋一神戸国際会館大ホール、主催兵庫県ほか(県芸術文化祭「邦楽邦舞ふるさと讃歌」)。筑前琵琶「綱籠」柴田旭堂、大藪旭寿、大藪旭晶、富樫旭桂、高千穂旭楓、方立二人。その他詩舞、三曲、舞踊、一絃琴、民謡、三味線、太鼓等二十六題が披露されサントレテレビでも放映された。

菊まつり

十一月一日〜九日兵庫県社町庁舎外五ヶ所に於て社町・花と緑りの協会等の主催、加東郡教育委員会その他が後援し第二日に杜山悠の源平三草山合戦の講話に続き筑前琵琶「三草山」を柴田旭堂女史が演奏して好評を受けた。尚、関西テレビ、ラヂオ関西では現地放映放送した。

日本芸術琵琶普絃会例会

十一月十六日(日)昼一時東京文京区大塚六丁目貸席京屋に於て開催。お江戸日本橋・門琵琶・伴流第六弾法一錦幽川中島一内田隆章漢詩二題一奈佐喜八一屋島の誉一青木早水木下藤吉郎富士川の初陣一松本諸水一羅生門一金森旭弾一須磨の春一福島辰水一新選組一伴旭友一秋海棠一坂入晴峰一末練西行一若宮旭登一鉢の木一長谷川錦舟一本能寺一山崎錦幽。以上研修のあと小宴、六時散会した。

日本琵琶悠絃会例会

十一月二十三日(日)昼一時東京中野区大和田

区センター。お江戸日本橋・門琵琶合奏一山崎錦幽、八束一峰一菅公一峰一紅葉狩一木村松吟一詩吟井伊大老一天羽岳水一水兵の母一柏木篤道一船弁慶一金尾洲文一雪の進軍一中村洲心一武蔵野一富士岳一彰義隊一清水源城一薩摩義士一鈴木鶴謡一鉢の木(下)一長谷川錦舟一似蝶一西村島峻。以上研修後忘年小宴を催して散会。次回は来年三月開催。

京都豊国神社百年祭に琵琶献奏

十一月二十三日(日)昼一時同神社会館、協賛大阪琵琶同好会。豊太閤一多和綾子一徳徳寺一作花旭友一関白秀次一辻旭城一毒饅頭一石橋旭嶺一お市の方一松本旭勇一淀君一田中敷水一木村重成一中島旭穂。外に詩吟、剣舞、扇舞等十題。

各流派琵琶演奏会

十一月二十四日(振替休日)正午京都東山松原上ル安井神社金比羅会館、主催京都琵琶協会。好天に恵まれ終始超満員の盛況を呈した。何れも熱演であったが特に序奏の山田明嶺嬢や来賓島田旭紅、杭東詠水、中野淀水三青年の若さ溢れる美事な演奏に満室の聴客は惜しみない拍手を送った。当日プログラム中二女史の病氣や事故での欠演は残念であった。全演奏終了後記念撮影に続いて関係者一堂に集まり乾盃、七時日出度く散会した。

小松の操(一)山田明嶺一広瀬中佐一水内煖水一羅生門一桜井旭富一茨木一田中敷水一橋中

佐一山岡旭清一石重丸一馬場鴨水一秋風故郷の山一林旭萌一川中島一牧雨水一別れの盃一安住旭康一絃山崎旭萃一扇の的一楊嶽水一鴨川の露一大阪島田旭紅一掛合大江山一大阪杭東詠水、中野淀水一粟津の露一梅原旭濤一木村重成一木下皇水一湯陽江(上)一平井春嶺一富樫の涙一植村真水。

錦心流琵琶演奏会

十一月二十六日(休)正午横須賀文化会館、主催桑水会、後援一水会本部ほか。紅葉狩一桑水、霞水、希水、志水一松の廊下一柴田叙水一常盤の前一油料蝶水一西郷隆盛一小保内真水一横笛一塚原紳水一月下の陣一中谷美水一別れの盃一石山祝水一菅公一藤堂霞水一白虎隊一斉藤妹水一八甲田山の露一土橋虎水一吉野山懐古一小林総水一巖流島一榎本山水一西郷隆盛一寺山注水一茨木一青木灯水一桶の下露一鈴木謙水一井伊大老一末吉希水一舟弁慶一会主石井桑水一本能寺一座間桜水一重衡一松岡遊水一敦盛一山田幻水一坂崎出羽守一梅沢洞水一湖水乗切一平野鉦水一新選組一藤川晴水一新曲本能寺一花俣圭水一小栗栖一杉本淳水一竜の口一山口速水一戦艦大和一中谷襄水。外に詩舞、舞踊各一題。

山崎旭萃叙勳祝賀演奏会

十一月二十九日(日)正午京都烏丸夷川京都商工会議所、主催日琵琶協関西支部役員有志。役員十六氏の出演でさすが関西の代表的各派名

十一月二十三日(日)昼一時東京中野区大和田